

ヘアケア商品をメインに、スキンケアやアロマ、入浴剤の製造販売を手掛けるヤマサキ(広島市)のテレワークの取り組み事例を紹介します。実施状況や今後の目標などを総務部長の中本敬さんに聞きました。

## 株式会社ヤマサキ(広島市)

# 社員にスマホ貸与 研究開発も在宅で



総務部長  
中本 敬さん

### —テレワークを取り入れたきっかけは？

もともと外勤の営業部では10年ほど前から環境を整えていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために2020年3月からテレワークを本格的に始めました。現在では、通販部やマーケティング部など、広島本社や東京、大阪支店の全ての社員を対象に拡大して実施しています。安佐南区の工場にある研究開発部でもテレワークを取り入れています。化粧品などを研究する部門なので、常にピーカーを振っているイメージがあるかもしれませんが、実際は、新商品の処方設計や社内勉強会の資料作りなど、自宅でできる業務もあります。当社の原料管理システムなどを活用して、社内と同じ環境で仕事を進められています。

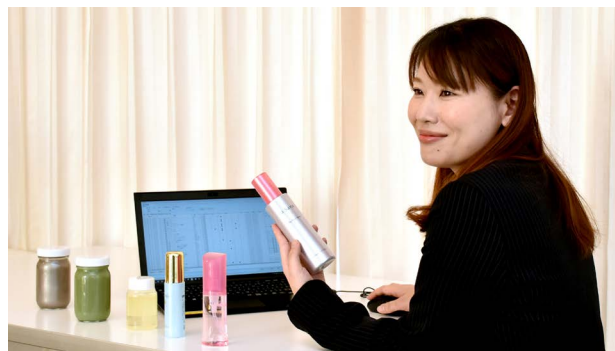
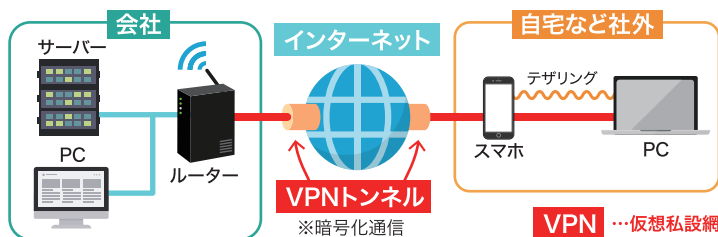
### —テレワークを実施するためにIT環境をどのように整備しましたか。

全ての社員にスマートフォンを貸し出し、場所を選ばずウェブ会議に参加できるようにしました。スマホには、携帯回線を使ってパソコン(PC)をインターネットにつなぐテザリング機能があるので、自宅にネット環境が整っていない社員にも対応できる上に、通信費の自己負担もありません。セキュリティを強化するために、社外と社内を仮想の専用線で結んだネットワーク「VPN(仮想私設網)」の環境も整備しました。

以前から、場所にとらわれずに働ける会社を目指してデスクトップ型のパソコンからノート型への切り替えや、ネット上で社内の情報が共有できるクラウド型サービスの導入など、IT環境を整えていたことで、テレワークへすぐに移行できました。

### —女性の多い職場ならではのテレワークの活用事例は？

約半数の社員は女性です。最近の活用事例を挙げると、コロナ禍で子どもが自宅待機になった時や妊娠中のつわりがひどい場合に活用した社員もいます。活用した社員には、「自宅で仕事ができて助かった」と好評でした。会社としても欠勤になってしまう戦力を生かすことができました。今後は生理や妊活、更年期障害への対応に活用の幅を広げ、生活と仕事を両立できるように取り組んでいきたいです。



研究開発の仕事はテレワークです  
井堰 裕子さん

### —ウェブ面接も積極的に進めています。

これまで中途採用ではウェブ面接をしていましたが、コロナ禍をきっかけに2020年から新卒採用にも取り入れました。ウェブを活用すると、離れた地域からでも面接に参加してもらえるので、学生の皆さんと気軽に対話できるのが魅力です。ただ、リアルな交流と比べて応募者の人柄が分かりづらいため、複数回の面接のうち1回は対面で行っています。応募者によっては「ウェブ面接で軽く扱われた」と感じる人もいたので、以前より丁寧に対応するよう心掛けています。

### —今後の取り組みは？

中長期的には、人材採用や離職防止につなげたいと思っています。これまでは広島・東京・大阪の拠点近くに住む人しか採用ができませんでした。全ての仕事がテレワークで対応できれば、高い技術を持った地方在住の人や家族の転勤などで離職を考える社員にも、在宅で働いてもらうことができます。ICT環境を上手に活用して場所の隔たりを埋め、社内外の人をつなげていきたいです。

### 現場の声

研究開発部  
井堰 裕子さん



### 原料の商談にもオンライン活用

2020年5月から週に2、3回テレワークをしています。当初は在宅での打ち合わせに不安がありましたが、スマホの画面を通してリアルタイムで研究室や工場の様子が分かるので、効率よく進められています。取引先との商談もオンラインを活用しています。新規の原料を商談する場合は、使用感や感触を確認するために、原料を事前に送っていただくなど工夫しています。在宅勤務を始めて、通勤や工場に入るための着替えの手間がなくなり、趣味に使える時間が増えました。今は英語や韓国語などを勉強しています。